

【商業簿記解説】

問題1 仕訳問題（請負工事契約）（以下、単位：円）

1. 原価比例法による工事進捗度に基づいて収益を認識した場合（問1）

(1) 20X2年度末における仕訳

（半成工事）（*1）	32,000,000	（材料費）	12,200,000
		（労務費）	10,100,000
		（経費）	9,700,000
（工事原価）	32,000,000	（半成工事）	32,000,000
（工事売掛金）	48,000,000	（工事収益）（*2）	48,000,000

(*1) 12,200,000<材料費>+10,100,000<労務費>+9,700,000<経費>=32,000,000<合計>

(*2) $\frac{28,000,000}{28,000,000+52,000,000} = 0.35$ <20X1年度の工事進捗度>

120,000,000<請負工事契約価額> $\times 0.35 = 42,000,000$ <20X1年度の工事収益>

$\frac{28,000,000+32,000,000}{28,000,000+32,000,000+20,000,000} = 0.75$ <20X2年度までの工事進捗度>

120,000,000<請負工事契約価額> $\times 0.75 - 42,000,000 = 48,000,000$ <20X2年度の工事収益>

2. 工事完成基準による場合（問2）

工事完成基準による場合は、完成・引渡し時に一括して工事収益が計上されるため、各年度の発生工事原価は完成・引渡し終了するまで「半成工事」として貸借対照表の流動資産に計上し、完成・引渡し時に一括して「工事原価」に振り替える。

(1) 20X2年度末における仕訳

（半成工事）（*）	32,000,000	（材料費）	12,200,000
		（労務費）	10,100,000
		（経費）	9,700,000

(*） 12,200,000<材料費>+10,100,000<労務費>+9,700,000<経費>=32,000,000<合計>

3. 原価回収基準を用いた場合（問3）

(1) 20X2年度末における仕訳

（半成工事）（*1）	32,000,000	（材料費）	12,200,000
		（労務費）	10,100,000
		（経費）	9,700,000
（工事原価）	32,000,000	（半成工事）	32,000,000
（工事売掛金）	32,000,000	（工事収益）（*2）	32,000,000

(*1) 12,200,000<材料費>+10,100,000<労務費>+9,700,000<経費>=32,000,000<合計>

(*2) 発生工事原価と同額の工事収益を計上する。

4. 原価回収基準を用いていたが、20X2年度から原価比例法による工事進捗度に基づいて収益を認識した場合(問4)

(1) 20X2年度末における仕訳

(半成工事) (*1)	32,000,000	(材料費)	12,200,000
		(労務費)	10,100,000
		(経費)	9,700,000
(工事原価)	32,000,000	(半成工事)	32,000,000
(工事売掛金)	62,000,000	(工事収益) (*2)	62,000,000

(*1) 12,200,000<材料費>+10,100,000<労務費>+9,700,000<経費>=32,000,000<合計>

(*2) 28,000,000<20X1年度の発生工事原価=20X1年度の工事収益>

$$\frac{28,000,000+32,000,000}{28,000,000+32,000,000+20,000,000} = 0.75 <20X2年度までの工事進捗度>$$

$$120,000,000 <請負工事計画価額> \times 0.75 - 28,000,000 = 62,000,000 <20X2年度の工事収益>$$

5. 20X1年度には収益を認識せず、20X2年度から原価比例法による工事進捗度に基づいて収益を認識した場合(問5)

20X1年度の発生工事原価は「半成工事」として繰り越しているため、20X2年度の発生工事原価とともに20X2年度末に「工事原価」に振り替える。

(1) 20X2年度末における仕訳

(半成工事) (*1)	32,000,000	(材料費)	12,200,000
		(労務費)	10,100,000
		(経費)	9,700,000
(工事原価) (*2)	60,000,000	(半成工事)	60,000,000
(工事売掛金)	90,000,000	(工事収益) (*3)	90,000,000

(*1) 12,200,000<材料費>+10,100,000<労務費>+9,700,000<経費>=32,000,000<合計>

(*2) 28,000,000+32,000,000=60,000,000

$$(*3) \frac{28,000,000+32,000,000}{28,000,000+32,000,000+20,000,000} = 0.75 <20X2年度までの工事進捗度>$$

$$120,000,000 <請負工事計画価額> \times 0.75 = 90,000,000 <20X2年度の工事収益>$$

問題2 損益勘定と閉鎖残高勘定の作成 (以下、単位:円)

1. 金銭債権

(1) 破産更生債権等

① 科目の振り替え

(破産更生債権等) (*)	3,800	(受取手形)	2,300
		(売掛金)	1,500

(*) $2,300 + 1,500 = 3,800$

∴ 閉鎖残高 受取手形: $5,600 < \text{前T/B} > - 2,300 = 3,300$

② 貸倒引当金の設定 (財務内容評価法)

(貸倒引当金繰入) (*)	1,200	(貸倒引当金)	1,200
---------------	-------	---------	-------

(*) $3,800 - 2,600 < \text{保証金} = \text{回収見込額} > = 1,200$

(2) 一般債権

① 外貨建て売掛金の換算

(為替差損益) (*)	60	(売掛金)	60
-------------	----	-------	----

(*) $900 \div @150 \text{円} < \text{HR} > = 6 \text{ドル}$

$6 \text{ドル} \times @140 \text{円} < \text{CR} > - 900 = \Delta 60 < \text{売掛金の減少額} = \text{為替差損} >$

∴ 閉鎖残高 売掛金: $4,700 < \text{前T/B} > - 1,500 - 60 = 3,140$

② 貸倒引当金の設定 (貸倒実績率法)

(貸倒引当金繰入) (*)	84	(貸倒引当金)	84
---------------	----	---------	----

(*) $(3,300 < \text{受取手形} > + 3,140 < \text{売掛金} > + 2,000 < \text{前T/B長期貸付金} >) \times 1\% = 84$

③ 貸倒引当金の繰入・戻入の相殺

(貸倒引当金) (*)	260	(貸倒引当金戻入)	260
(貸倒引当金戻入)	260	(貸倒引当金繰入)	260

(*) 前T/B貸倒引当金

∴ 損益 貸倒引当金繰入: $1,200 + 84 - 260 = 1,024$

∴ 閉鎖残高 貸倒引当金: $1,200 + 84 = 1,284$

2. 有価証券

(1) 満期保有目的債券

① 償却原価法 (定額法) と期末換算

(外貨建満期保有目的債券) (*1)	145	(有価証券利息)	145
(為替差損益) (*2)	395	(外貨建満期保有目的債券)	395

(*1) $(30 \text{ドル} < \text{額面} > - 26 \text{ドル} < \text{取得原価} >) \div 4 \text{年} < \text{償還期間} > = 1 \text{ドル} < \text{当期償却額} < \text{外貨} > >$

$1 \text{ドル} \times @145 \text{円} < \text{AR} > = 145 < \text{当期償却額} < \text{円貨} > >$

(*2) $26 \text{ドル} + 1 \text{ドル} = 27 \text{ドル} < \text{当期末償却原価} < \text{外貨} > >$

$27 \text{ドル} \times @140 \text{円} < \text{CR} > = 3,780 < \text{貸借対照表価額} = \text{閉鎖残高 外貨建満期保有目的債券} >$

$3,780 - (4,030 < \text{取得原価} < \text{円貨} > = \text{前T/B} > + 145 < \text{当期償却額} < \text{円貨} > >) = \Delta 395 < \text{為替差損} >$

∴ 損益 為替差損益 (借方): $60 + 395 = 455 < \text{為替差損} >$

(2) その他有価証券

① 期首の振戻処理 (未処理)

(その他有価証券評価差額金) (*)	430	(その他有価証券)	430
--------------------	-----	-----------	-----

(*) 前T/Bその他有価証券評価差額金

$$\therefore 3,600 < \text{前T/Bその他有価証券} > - 430 = 3,170 < \text{取得原価} >$$

② 期末時価評価

(その他有価証券) (*)	130	(その他有価証券評価差額金)	130
---------------	-----	----------------	-----

(*) $1,600 < \text{A社株式} > + 1,700 < \text{B社株式} > = 3,300 < \text{時価} = \text{閉鎖残高 その他有価証券} >$

$$3,300 - 3,170 < \text{取得原価} > = 130 < \text{評価益} >$$

3. 商品売買 (商品の期末評価及び売上原価の計算)

(仕入)	31,000	(繰越商品)	31,000
(繰越商品) (*1)	32,000	(仕入)	32,000
(棚卸減耗費) (*2)	800	(繰越商品) (*4)	920
(商品評価損) (*3)	120		
(仕入)	920	(棚卸減耗費)	800
		(商品評価損)	120

(*1) $@40 < \text{取得原価} > \times 800 \text{個} < \text{帳簿棚卸高} > = 32,000$

(*2) $@40 < \text{取得原価} > \times (800 \text{個} < \text{帳簿棚卸高} > - 780 \text{個} < \text{実地棚卸高} >) = 800$

(*3) $(@40 < \text{取得原価} > - @10 \text{円} < \text{品質低下品の正味売却価額} >) \times 4 \text{個} < \text{品質低下品} > = 120$

(*4) $800 + 120 = 920$

$$\therefore \text{損益 仕入} : 124,000 < \text{前T/B} > + 31,000 - 32,000 + 920 = 123,920$$

$$\therefore \text{閉鎖残高 繰越商品} : 32,000 - 920 = 31,080$$

4. 固定資産 (建物)

(1) 減価償却 (定額法)

(減価償却費) (*)	1,000	(建物減価償却累計額)	1,000
-------------	-------	-------------	-------

(*) $40,000 < \text{前T/B建物} > \div 40 \text{年} < \text{耐用年数} > = 1,000$

$$\therefore \text{閉鎖残高 建物減価償却累計額} : 12,000 < \text{前T/B} > + 1,000 = 13,000$$

(2) 減損損失の計上

(減損損失) (*)	1,100	(建物)	1,100
------------	-------	------	-------

(*) $40,000 - (12,000 + 1,000) = 27,000 < \text{当期末の帳簿価額} >$

$27,000 < \text{帳簿価額} > > 26,200 < \text{割引前将来キャッシュ・フロー} > \therefore \text{減損損失を認識する}$

$25,900 < \text{使用価値} > > 25,000 < \text{正味売却価額} > \therefore 25,900 < \text{回収可能価額} >$

$$27,000 - 25,900 = 1,100$$

$$\therefore \text{閉鎖残高 建物} : 40,000 < \text{前T/B} > - 1,100 = 38,900$$

5. 長期借入金 (未払利息の計上)

(支払利息) (*)	70	(未払利息)	70
------------	----	--------	----

(*) $3,000 < \text{前T/B長期借入金} > \times 4\% \times \frac{7 \text{か月}}{12 \text{か月}} = 70$

$$\therefore \text{損益 支払利息} : 50 < \text{前T/B} > + 70 = 120$$

6. 社債

問題文に「社債発行差金勘定を用いて」とあるため、償却額は「社債」勘定を増額するのではなく、評価勘定としての「社債発行差金」勘定を減額する。

(社債利息) (*)	221	(社債発行差金)	221
------------	-----	----------	-----

(*) $9,300 < \text{発行価額} > \times 5.6\% < \text{実効利率} > = 521 < \text{利息配分額} = \text{損益 社債利息} >$

$521 - 300 < \text{前T/B社債利息} > = 221 < \text{償却額} >$

∴ 閉鎖残高 社債発行差金 : $700 < \text{前T/B} > - 221 = 479$

7. 費用及び収益の見越と繰延

(1) 未払給料

(給料)	340	(未払給料)	340
------	-----	--------	-----

∴ 損益 給料 : $3,200 < \text{前T/B} > + 340 = 3,540$

(2) 未払利息

解説5. 参照

(3) 前払広告宣伝費

(前払広告宣伝費) (*)	20	(広告宣伝費)	20
---------------	----	---------	----

(*) $120 < \text{前T/B広告宣伝費} > \times \frac{2 \text{か月}}{12 \text{か月}} = 20$

∴ 損益 広告宣伝費 : $120 < \text{前T/B} > - 20 = 100$

8. 自己株式処分差損

(1) 自己株式処分差損の修正

(その他資本剰余金)	560	(自己株式処分差損) (*)	560
------------	-----	----------------	-----

(*) 前T/B自己株式処分差損

(2) 繰越利益剰余金からの減額

その他資本剰余金が負の値になる場合は、会計期間末において、その他資本剰余金を零とし、当該負の値をその他利益剰余金（繰越利益剰余金）から減額する。

(繰越利益剰余金) (*)	140	(その他資本剰余金)	140
---------------	-----	------------	-----

(*) $420 < \text{前T/Bその他資本剰余金} > - 560 = \Delta 140$

∴ 閉鎖残高 その他資本剰余金 : $420 < \text{前T/B} > - 560 + 140 = 0$

9. 法人税等

(法人税等)	500	(仮払法人税等) (*1)	200
		(未払法人税等) (*2)	300

(*1) 前T/B仮払法人税等

(*2) 貸借差額

10. 当期純利益の振替え

(損益) (*)	10,505	(繰越利益剰余金)	10,505
----------	--------	-----------	--------

(*) 損益勘定の貸借差額

∴ 閉鎖残高 繰越利益剰余金 : $12,210 < \text{前T/B} > - 140 + 10,505 = 22,575$

【財務会計解説】

問題1 正誤問題

解答参照。なお、関係する法令、会計基準等は、次のとおりである。

1. 保守主義の原則 「企業会計原則注解【注4】」
2. 棚卸資産の表示「企業会計原則注解【注16】」
3. 一定の期間にわたり充足される履行義務 「収益認識に関する会計基準 38(3)」
4. 負ののれんの会計処理 「企業結合に関する会計基準 33」
5. 役員賞与 「役員賞与に関する会計基準 12」
6. その他資本剰余金の残高が負の値になった場合の取扱い
「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準 12」
7. 研究開発費の発生時費用処理について 「研究開発費等に係る会計基準の設定に関する意見書 三 2」
8. 在外子会社等の資本に属する項目の換算 「外貨建取引等会計処理基準 三 2」
9. 金融資産の消滅の認識要件 「金融商品に関する会計基準 9」
10. 損益計算書及び包括利益計算書 「退職給付に関する会計基準 15」

問題2 有価証券の保有目的区分の変更

問1～問4 解答参照。

問5 保有する株式の保有目的区分を変更する場合の原則的な振替額

有価証券の保有目的を変更した場合には、次のように取り扱う。

変更前	変更後	振替価額	振替時の評価差額
売買目的有価証券	子会社株式 関連会社株式	振替時の時価	有価証券運用損益
	その他有価証券		
満期保有目的債券	売買目的有価証券	取得原価または 振替時の償却原価	—
	その他有価証券		
子会社株式 関連会社株式	売買目的有価証券	帳簿価額	—
	その他有価証券		
その他有価証券	売買目的有価証券	振替時の時価	有価証券運用損益
	子会社株式 関連会社株式	下記以外＝帳簿価額 部分・評価損＝前期末時価	

問題3 連結会計～子会社の増資

問1 増資後の持分比率

(1) 親会社持分比率

$$4,000株<増資前発行済株式総数>\times 75\%<増資前親会社持分比率>=3,000株<親会社の所有株式数>$$

$$3,000株\div(4,000株+1,000株<増資>)=60\%<増資後親会社持分比率>$$

(2) 非支配株主持分比率

$$4,000株<増資前発行済株式総数>-3,000株<親会社の所有株式数>=1,000株<増資前の非支配株主の所有株式数>$$

$$(1,000株<増資前>+1,000株<増資>)\div(4,000株+1,000株<増資>)=40\%<増資後非支配株主持分比率>$$

問2 増資後の持分増減額

(1) 親会社持分の増減額

$1,000,000\text{円}\langle\text{増資前資本金}\rangle + 200,000\text{円}\langle\text{資本剰余金}\rangle + 400,000\text{円}\langle\text{利益剰余金}\rangle = 1,600,000\text{円}\langle\text{増資前資本合計}\rangle$

$1,600,000\text{円}\langle\text{増資前資本合計}\rangle + 1,000\text{株} \times @300\text{円} = 1,900,000\text{円}\langle\text{増資後資本合計}\rangle$

$1,900,000\text{円} \times 60\% \langle\text{増資後親会社持分比率}\rangle - 1,600,000\text{円} \times 75\% \langle\text{増資前親会社持分比率}\rangle = \Delta 60,000\text{円}$

(2) 非支配株主持分の増減額

$1,900,000\text{円} \times 40\% \langle\text{増資後非支配株主持分比率}\rangle - 1,600,000\text{円} \times 25\% \langle\text{増資前非支配株主持分比率}\rangle = 360,000\text{円}$

問3 解答参照。